

1. 評価結果概要表

作成日 2008年8月7日

【評価実施概要】

事業所番号	0872001003		
法人名	株式会社 長寿館		
事業所名	グループホーム作谷長寿館		
所在地	茨城県つくば市作谷1038-23 (電話)029-869-1855		
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年8月7日	評価確定日	平成20年11月19日

【情報提供票より】平成20年7月24日)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 6月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 12 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	12.8 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,400 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 200,000円)	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500 円	

(4) 利用者の概要(2008/8/7現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	8 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均	最低	64 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	木村クリニック・筑波病院・いいつか歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当該ホームの特徴は3点あげられる。第一は利用者に対する職員の対応が非常に丁寧である。第二はホームが明るく、また隅々まで大変清潔である。第三は職員間の関係が非常に良好であることである。この3つの特徴が相乗効果をもたらし、ホーム全体がゆったりとした明るく幸せそうな雰囲気となっていると思われる。また、利用者の生きがい作りも積極的に行われており、特に本格的な畑は、農家出身の利用者が多いことを考えると、非常に有意義な資源となっている。さらにISOを取得しており、より質の高いホームを構築することへ余念ない。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、「地域とのつきあい」と「災害対策」が課題として提示された。前者は、小学校の運動会やボランティアの受け入れなど実施できていることは多数あったが、町内会への加入が望まれる、と評価されていた。後者も防災訓練等実施はできていたが、非常食の備蓄が課題としてあげられていた。それぞれ完全な改善は図れていないが、改善への意識は高く、年内には改善されると思われる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	上述したように完全な改善までは至っていないが、管理者を筆頭に、職員の意識は高まってきている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2月に1回行っている。地区長や民生委員、市の職員の方々が参加している。現在はホームの報告が中心となっているが、これまで災害対策などについて質問や意見がでた。これからより多くの意見をもらい、ホームの運営に活かしていく予定である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱を設置している。そのほか家族がホームを訪ねてきた際、さまざま聞くようにしている。これまで具体的な要望もあがってきており、それらには個別対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	特に力を入れているのは週一回男性職員が地域のごみ拾いを行っている。それにより、地域の方々から声をかけてもらえるようになって来た。また小学校の運動会への参加、ボランティアの受け入れ等、地域と連携を図っている。また前回からの課題であった町内会への加入も条件が整ってきたので今年は加入することとしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとして以下の理念を構築している。「地域に根ざした暖かいホームを築けるように、支えあい、助け合い、笑顔で自分らしく生活していける場を目指します」。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の朝礼やカンファレンスにおいて理念を職員間で確認している。また理念を具現化すべく、地域のゴミ拾いを行っている。これにより、地域住民から声をかけてもらえるようになった。このような取り組みを通じて地域により根ざしたホームを目指している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校の運動会に参加したり、ボランティアを受け入れたりと地域とのつきあいは確立してきている。より地域との付き合いを深めるために自治会への加入を目標に掲げていたが、まだ達成されていないため今後の取り組みに期待したい。	○	自治会へ加入するための障壁が取り除かれた、とのことであったので、有言実行となるよう自治会への加入を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を行う場合は、管理者がさまざまな職員の意見を聞きながら評価をするように心がけている。また、外部評価の結果が上がってくると、誰でも閲覧できるようにファイルして玄関に置いてある。		外部評価の意義や意味をすべての職員と共有するような取り組みもさらに期待していきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されており、地域住民の代表や民生委員、家族、市職員が参加している。その中でホームの取り組み状況等を報告している。		

茨城県 グループホーム作谷長寿館

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域のホームで結成している地域密着型サービス連絡会には市職員も参加しており、それを通じて運営推進会議以外にも市担当者と情報交換等を行っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に1回瓦版を作成し、利用者の様子を家族に伝えるようにしている。また出納状況も随時家族に伝えている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置している。ただしこれまであまり意見箱に意見が寄せられたことはない。理由は、家族がホームを訪問した際、できるだけ家族の意見を聞くように心がけているためである。これまでさまざまな意見が家族より寄せられ、ケアや運営に反映させている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人が大きいため、職員等の異動は避けられないが、その際は利用者に事前に説明し、異動後も利用者から尋ねられた場合は、根気よく説明するようにしている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新入職員用のマニュアルが作成されており、利用者それぞれの対応方法が記されている。これにより新入職員でも早い段階から利用者ケアに対応できる。運営者は職員を積極的に研修に出しており、多くの職員が研修を受け知識や技術レベルの向上に努めている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>月に1回の地域密着型サービス連絡会に参加しており、そこで同業者と交流している。この中で事例検討を行ったりし、サービスの質の向上のための勉強や情報入手をしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者が入居しようとする際に不安がある場合は、事前見学をしてもらったり、生活歴を入念に聞き、ケアに反映するように心がけている。また、家族に定期的な面会の協力を得たりしている。併設のデイサービスの利用者が入居になることもあり、その場合はすでにホームに馴染んでいることが多い。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「生活の知恵」を利用者から学ぼうとする姿勢が職員に備わっている。特にホームで力を入れている畑の管理や野菜の育て方は、利用者に農家出身者が多いため、知恵を多く借りている。その他にも雑巾の縫い方、もやしのヒゲの取り方など様々な生活の知恵を利用者から享受している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用して、利用者本人の生活歴に重点を置きながら、本人本意のケアを検討し、実践に移している。生活歴は、アセスメント時のみではとりきれないため、共にホームで生活をする中で、これまでの生活に関する新たな情報があると、記録に付け足すようにし、ケアに反映している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス担当者会議において、居宅担当者(利用者の担当者)を中心として介護計画を立てている。可能であれば家族や本人にも会議に入ってもらい、介護計画にその意向を反映するように努力している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月に1回見直しを行っているが、必要があれば随時利用者の状態にあわせた内容の介護計画を作成している。介護計画は見直しを行った場合は家族に確認してもらい、認め印を押してもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスセンターにおける催し物や、ホーム利用者とデイサービス利用者が知り合い出会ったりする場合は、その面会の機会を設けたりし、事業所の多機能性を活かした支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には提携病院の週1回の往診によって受診支援を行っている。その他にも本人や家族が希望する場合は、提携病院以外のかかりつけ病院の受診も支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホーム独自の終末期対応指針を作成しており、入所時に家族等と確認している。		入所時の確認は行っているが、重度化や終末期における家族の意向の変化等についての記録がなされていないため、今後は記録をつけていくことの検討が必要と感じられた。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保や保護は徹底して行われている。これは、ホーム便りに行事の写真を掲載する際に写っている利用者の家族等に写真の掲載許可を得ている、といったことにもあらわれている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが、本人や家族の希望を出来るだけ取り入れるように心がけている。例えば好きなお菓子を食いたいという希望に沿っていたり、買い物に出たいという希望があれば対応したりしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けは職員と利用者が一緒に行っている。また食事は職員と利用者一緒に食べている。食事中も職員と利用者が楽しげに会話をしていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的に利用者と職員が1対1で支援を行うようにしている。入浴の時間は原則的には決まっているが、必要があれば時間帯を変えたりと個別的な対応をすることもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	農家出身の利用者が多いため、ホームで管理している畑は、利用者の生活歴を活かした役割を作るのに大きな役割を果たしている。その他にもボランティアの受け入れ、併設のデイサービスのおける行事への参加等利用者の気晴らしの支援も多く行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月に1回は外出をするようにしている。その際にとる昼食を楽しみにしている利用者が多い。この他にも、天気がよく利用者の希望がある場合は、ドライブに出たりと臨機応変に対応をなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないケアを実践している。利用者の人数も常にチェックしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防訓練を行っている。また避難訓練もっており、災害対策への意識は高い。今後は地区の消防団に対して働きかけて、関係を築いていきたいと考えている。	○	前回の外部調査から非常食を常備することが課題としてあげられていたが、まだ改善されていないので、引き続きの改善事項としてあげられる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が栄養バランス、量を考えた献立を作成している。またきざみ食やペースト食など利用者1人1人のレベルに合わせたものを用意している。また食事摂取量、水分摂取量はそれぞれの利用者のものが記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは全体的に清掃がよく行き届いており、清潔に保たれていた。また生活感、季節感がでるような工夫がなされていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使い慣れたもの、馴染みのものを持ち込めるようになっており、多くの利用者が自分の過ごしやすい居室において過ごしていた。		